

と切るもの、家次文明二年と切るもの、又加州藤原朝臣家次と切つて長享比と認められるものがあり、同銘三代と言はれ、通稱は將監。その初代は國永の子と傳へられる。此等は能美村の橋爪に住んで居たので、世にその作を橋爪物といふ。新刀期に入つて太郎左衛門家次、寛永比の家次、貞享比の家次が相繼ぐ。前田利常が承應三年越中瑞龍寺に納めた二十二刀中に賀州住家次とあるものは、寛永比の家次であらう。

イヘトシ 家俊 加賀の刀工。加州住家俊作と切る。應永比の人。

イヘナガ 家長 加賀の刀工。加州住人家長と切る。文明比の人。

イヘナガ 家永 加賀の刀工。加州家永明應二年と切つたものがある。又加州住藤原家永と切つたものもある。

イヘナリ 家成 加賀の刀工。古刀期の家成は家成と切る。應永比の人。新刀紀の家成も亦家成と切る。通稱を六右衛門といひ、貞享比といはれる。

イヘノブ 屋信 加賀の刀工。加州屋信と切る。應永後の人。

イヘノブ 家信 加賀の刀工。加州住藤原家信と切る。永祿比の人。

イヘヒラ 家平 加賀の刀工。初代家平は二代吉兵衛家忠の子。通稱四郎兵衛。賀州住藤原家平寛文七年・寛文十一年・延寶九年など、切つたものがあり、天和三年に歿した。

二代家平は通稱吉兵衛、賀州住藤原家平元祿十一年二月・寶永二年二月など、切り、初代に比して著しく太銘である。正徳年中國平と改銘し、享保十七年二月廿五日歿した。

イヘヒロ 家廣 加賀の刀工。古刀期では加州住家廣と切つた永祿比のものがある。新刀期の家廣は初代家忠の門人で、承應三年前田利常が越中瑞龍寺に寄進した二十二刀中に、加州住藤原家廣と切つたものがある。

イヘヒロ 家弘 加賀の刀工。初代吉兵衛國平の子。通稱吉右衛門。後に二代國平と改銘し、寶曆八年に歿した。

イヘマサ 家政 加賀の刀工。その加州住藤原家政應永八年と切るものは家次の子であり、又家政作文明二年と切るもの、家政天文廿二年と切るものは各別人である。

イヘマサ 家正 加賀の刀工。三州鍛冶系圖に據れば、初代は享祿頃江沼郡敷地住、二代は弘治頃とするが、現に作品の存する者少く、その代別を断定することは不可能である。又刀工總覽に加州千代鶴家正元龜二年とするものは別人である。

イヘミマヒ 家見舞 一冊。寶永三年二月五日金澤の火災に、牧童・北枝の家が類焼に罹つたを見舞はん爲、小松連中が各家具に寄せた句を作つて附り、又秋の坊等は家持十願として燕・戀などの句を以て新築を祝つた趣向である。同年井筒屋庄兵衛板。この書は支考の後援によつて成つたものであるから、井筒屋書目に著者を支考として居る。

イヘモリ 家盛 加賀の刀工。加州住藤原家盛と切る。天文比の人。

イヘヨシ 家吉 加賀の刀工。古刀期にあつて家吉又は加州藤原家吉と切るものは、應永以後數人ある。新刀期に在つて加州住藤原家吉又は加州住家吉と切るものは、能美郡能美村の住で、太郎左衛門家次の二子、寛永比

の人である。承應三年前田利常が越中瑞龍寺に寄進した二十二刀中に加州住藤原家吉とあるものも之に同じい。

イヘヨシ 家義 加賀の刀工。家義と切る。古刀期の家吉中の一人に同じいといはれる。

イヘヨシ 家善 加賀の刀工。家善と切る。寛永比の人といはれる。

イホイケ 疣池 鹿島郡町屋に在る池。能登名跡志に、町屋村に助八の持宮住吉明神の誓ひの疣池があり、この池の石で疣をすれば速かに落つるとある。

イホリ 庵 鹿島郡大吞郷（又は北三郷内庵中山郷）に屬する部落。附近の清水平・柑子山・小栗・横山・外林の五ヶ村は、元と庵の枝村であつた。

イホリナカヤマゴウ 庵中山郷 鹿島郡大吞郷なる庵・江泊・大野木三村を、加賀藩では北三郷内庵中山郷といふた。

イマ 今 河北郡鞍月庄に屬する部落。

イマイルギノタカヒ 今石動の戦 未森の戦役以後前田・佐々二氏は常に國境に爭うたが、天正十三年四月成政は俱利伽羅の途に保つべからざるを慮つて守兵を撤した。因つて利家は近藤長廣・岡野一吉・平野五郎右衛門を俱利伽羅に置き、又前田秀繼を越中今石動に城きて居らしめた。五月成政の將佐々平左衛門・前野小兵衛が今石動を襲うたが、前田秀繼はその子利秀と共に能く拒ぎ、俱利伽羅の兵も亦來援したから、遂に敵を撃退することを得た。

イマイルギヒシジヨウガハナシハイ 今石動氷見城端支配 天正十三年前田右近秀繼

は越中今石動城に鎮したが、幾程なく木船城に移り、子又次郎利秀之に代り、利秀の文祿二年歿後は篠島織部清了が城代となつた。清了元和元年歿し、子豊前清政代り、廢城後もこの地に在つて、その子豊前清長、その子豊前清次が繼ぎ、その子主馬清英に至つて初めて今石動氷見城端支配となつた。寶永七年清英歿し、子七郎定清幼にして金澤に歸り、五月十九日鹽川安左衛門久貞が之に命ぜられ、役料二百石を賜ひ、與力五人・足輕三十二人内小頭二人御預、手替三人・小者三人は自分以下された。これ後世の格である。寛保二年三月廿七日富田次太夫貞武が人持から之に任せられ、爾後人持・頭分入交ることとなつた。

但し人持の場合は役料を與へられなかつた。

イマイチ 今市 石川郡石浦庄にあつた村の一つであり、後に金澤に入つた。慶長の石浦七ヶ村氏子連判狀に、今市村 平左衛門とあり、寛永八年石浦山王社氏子地圖に、今市村を西町邊に記載し、明和二年慈光院上申書に「今市村は只今の近江町に有之處、退轉之由申傳」とある。金澤古蹟志にいふ。昔今町・新町の地邊に、久保市といふ市場があつたが、その後近江町に更に市場が建つたから之を今市と稱し、遂に一村落となつたものであらう。今此の地に魚市を立て、青草辻に青物市を立てるのも、古へ今市村のあつた頃の名残であるまいかと。

イマイツミ 今泉 河北郡五ヶ庄に屬する部落。

イマエ 今江 能美郡粟津郷に屬する部落。同地願勝寺に藏する蓮如上人繪像の慶長十七年五月の裏書に、加州能美郡粟津保内今